『事例で学ぶ独占禁止法』

（T.K.・20 代・学部生）

独占禁止法を学び始めるにあたって，巷で裁判例（・審決）の重要性がことさら強調されていることを知ったため，一冊目に読む本として本書を選んだ。基本的には前から順に読み進め，必要に応じて条文やミクロ経済学の基本的な書籍を参照した（ただし，ミクロ経済学の知識が無ければ読めないということではない）。

本書では各章に 3 〜 4 の「テーマ」が設けられ，「テーマ」はさらに数個の節に分かれている。各節は「基礎知識→関連する裁判例・審決・公取委事例・ガイドライン等→それら事例の解説」という順で書かれており，それぞれの解説は簡潔かつ明快である。必要以上に踏み込んだ内容ではないために，初学者の私も混乱せず読めたが，脚注や本文中の注釈が一切ないため他の文献等への発展がしにくいのが残念であった。

とはいえ，この一冊で基本事項と事例処理のされ方を学ぶことが可能であるという点は非常に強みであると言える。そのような一冊本を求める読者にはこれ以上ないものではないだろうか。

『法学教室』2017 年 10 月号（No.445）掲載 「Reader's Voice」より